

## 鳥獣の保護 管理被害対策

# ツキノワグマのモニタリング調査

～ 地域個体群の長期にわたる安定的な維持と  
効果的な被害対策の確立 ～

### 研究の背景・目的

西中国地域(島根県、広島県、山口県)のツキノワグマは、孤立分布し、生息数が少ないことから日本版レッドデータブックにおいて「絶滅のおそれのある地域個体群」とされています。しかし、近年生息分布域が拡大し、人里付近へ出没することが多くなって、養蜂、クリ園、民家のカキなどへの被害が増加しています。そのため、適正な保護管理対策の確立が求められています。

### 研究方法

「特定鳥獣保護管理計画」(3県で共通の目的を持った計画を策定)で求められるモニタリングのために、生息環境や生息実態を把握します。とくに、人工林などの伐採跡地や列状間伐跡地の植生調査から、クマの好適な生息環境を再生するための技術手法を確立します。各種の堅果類の種子生産量等の年変動とクマの出没状況、捕獲個体の解剖結果との関連を分析して、人里への大量出没の原因究明を行います。また、クマハギの発生原因を解明するとともに、クマハギを回避するために生分解性ネットによる被害防除の効果を検証します。

### 研究状況

- ①2010年度の捕獲個体(96頭)の年齢構成は0～25歳、平均年齢は7.2(オス6.4, メス9.2)歳でした。これまでの大量出没年と同様に警戒心の高い高齢個体や親子グマも多数捕獲されました(図1)。
- ②2010年の堅果類や液果類の豊凶は県西部の一部を除いて大凶作でした。また、有害捕獲個体の胃内容物からは、誘引物のカキやハチの巣を多く認めました。したがって、秋期の餌不足によって人里に多くのクマが出没したと考えられました。
- ③クマハギ調査林での新たなクマハギの発生はありませんでした。また、防除試験地においても新たな被害は発生しませんでした(図2)。

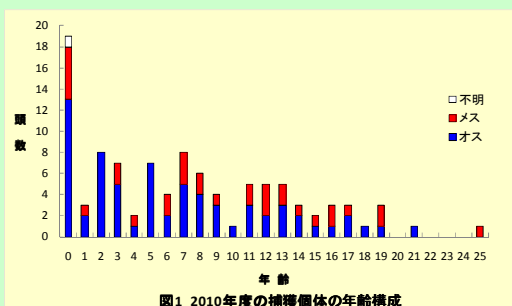


図1 2010年度の捕獲個体の年齢構成



図2 生分解性ネットによる防除試験林

### 研究の現場移転(成果-技術-の移転先・対象の量など)

- ①大量出没の原因を究明し、「特定鳥獣保護管理計画」にフィードバックして、適切な保護管理技術とクマの好適な森林環境整備の手法を確立できます。
- ②近年発生したクマハギの発生動向を把握し、発生原因を究明すると共に、生分解性ネットを用いた環境面も考慮した防除方法を確立できます。



MOUNTAINOUS REGION RESEARCH CENTER  
島根県 中山間地域研究センター

所属グループ 鳥獣対策グループ

担当研究者 澤田 誠吾

〒690-3405 島根県飯石郡飯南町上来島1207 問い合わせ先 0854-76-3819

Mail: chusankan@pref.shimane.lg.jp (中山間研究C)

試験研究課題名: ツキノワグマの保護管理と被害対策のモニタリング調査

(研究期間: H21～23)